

令和6年度 江戸川区立松江第六中学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	【開拓の心を身に付け、志をもち、自ら育つ生徒】 ・学び考える生徒 ・他を思いやる生徒 ・心身たくましい生徒	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○誰もが生き生きと過ごし笑顔溢れる学校。課題に迅速に対応し、積極的に改善・充実を図る学校。保護者・地域から信頼され、安心して生徒を通わせられる学校。 ○自ら学び、考え、判断し、主体的に行動できる生徒。人の気持ちや立場を思いやり、互いを尊重し、高め合うことのできる生徒。向上心を持ち、将来にわたって進んで地域や社会のために役立とうとする生徒。 ○生徒の成長を一番に考え、常に工夫や改善の意識を持ち、互いに高め合いチームで教育活動を推進できる教師。生徒の身近にいる大人として魅力のある教師。
前年度までの本校の現状	成果 ・上級生が良い見本となり、学校が落ち着いた状態を維持できている。授業に集中している生徒が多い。良い伝統を継承し、あいさつが全学年できている。 ・学校行事は毎年ワンランク上を目指し、3年生が手本となり下級生を引っ張っている。 ・安定した小中連携ができている。また地域からの期待も高いが応えることができている。	課題 ・学力の2極分化が進んでいる。学力的に低い生徒へ学習意欲を高めさせ、学力を向上させることが難しい。 ・不登校生徒の出現率が8%を超えている。また特別な配慮を要する生徒も多いため、新規の不登校生徒が出ないように細やかな配慮が必要である。 ・教職員の労力の担うところは大きく、働き方改革は進んでいない。	

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A~D)		「中間」学校関係者評価(A~D)		「年度末」自己（学校）評価(A~D)		「年度末」学校関係者評価(A~D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得	・授業ユニバーサルデザインの徹底・コンテストや検定の計画的な実施・「ドリルパーク」の活用	・検定合格率70%以上 ・授業に関する肯定的評価93%以上	B		B	・検定合格率76.3% ・授業に関する肯定的評価は92.3%でわずかに及ばなかった。	B	・漢検・数検は2回、英検は3回実施していることはありがたい。 ・授業も落ち着いている。	B	・検定合格率75.0% ・授業UDは徹底できた。 ・ドリルパークを計画的に取り組ませた。	B	・検定は継続して行ってもらいたい。 ・授業は大変落ち着いている。	・引き続き授業規律を整え落ち着いた学校生活を送らせる。検定も今年度並みに実施する。
	○研究授業、都教委訪問等を通じた、教員の授業力、指導力の向上	・管理職による授業観察 ・道徳の授業力向上のための授業研修実施・講師の招聘	・道徳の授業力向上に関する自己評価80%以上	A		A	・管理職による授業観察は予定通り行っている。 ・10月に道徳の授業力向上研修を講師を招聘して行う。	A	・道徳の授業力の向上を目指していることが評価できる。	A	・授業観察は予定通り行い、指導・助言を行っている。 ・道徳の元指導教諭を招聘し、授業力向上を図った。	A	・講師を招聘しての授業力向上に向けての取組は評価できる。	・若手教員が増加しているので、あらゆる研修の機会を利用して授業力の向上を図る。
	○読書科の更なる充実	・一人一台端末等の効果的な活用 ・情報収集力・プレゼンテーション能力の育成	・プレゼンテーション発表を1人年間10回以上行う	B		B	・中間申告の面接にて、ICT機器の効果的な活用について聞き取っている。 ・各教科で取組を進めている。	B	・生徒一人一人が堂々と自分の意見を発表できるようになるといい。	B	・1教科1回以上のプレゼンテーション授業を実施した。 ・教科ごとに効果的なICT機器の使い方をしていく。	B	・授業中、はっきりと自分の意見を伝えていた。	・プレゼンテーションの機会を各教科で効果的に実施する。
体力の向上	○運動意欲や基礎体力の向上	・体力テストにおける目標値の提示 ・毎回の体育授業時の種目別の補助運動の実施	・体力合計点を前年比+5% ・区の平均を上回る	B		B	・体力合計点は前年比で3年女子+4%、2年女子+11%、3年男子+14%、2年男子+26%となった。	B	・毎回の授業での補助運動を継続して欲しい。	B	・本校の生徒は、柔軟性と敏しょう性に課題があるが、測定の前の準備運動や動機づけに課題がある。	B	・運動会では、生徒が良く頑張っていた。 ・全員が一生懸命に取り組む様子が見られた。	・測定方法を工夫し、より精度の高いデータを集める。体育授業での補助運動を必須とする。
	○健やかな体の育成	・基本的生活習慣の徹底 ・身だしなみや正しい姿勢の指導	・保護者アンケート「基本的生活習慣」に関する肯定的評価95%以上	B		B	・基本的生活習慣の徹底に努めている。 ・身だしなみや姿勢、挨拶や返事の指導を常に行っている。	A	・生徒の挨拶がとても良い。	B	・基本的生活習慣に関する保護者の肯定的評価は97%以上であった。しかし個々には課題のある生徒が多い。	B	・身だしなみがきちんとしていて、挨拶もしっかりとしている。 ・一部に授業中に足を組むなど姿勢の悪い生徒がいた。	・基本的成果う習慣を徹底する。あいさつ・返事・姿勢等にさらに気を配る。
共生社会の実現に向けた教育の推進	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・巡回指導や特別支援教室専門員の活用・連携	・週1回の特別支援委員会の開催	A		A	・特別支援委員会を週1回行い、情報を共有し、手立てを相談している。	A	・引き続き情報共有を図って欲しい。	A	・特別支援委員会を週1回行い、情報を共有し、手立てを講じ実践に繋げている。	A	・引き続き情報共有が必要である。	・異動等で職員が代わっても授業UDを徹底する。
	○エンカレッジルームの活用促進	・エンカレッジルームの保護者への理解啓発	・学校だより、学校ホームページにてエンカレッジルームを紹介	D		D	・エンカレッジルームの紹介ができていないので後期に学校だより等で行う。	D	・エンカレッジルームの役割などを保護者や地域にも発信して欲しい。	D	・タイミングが合わず、学校だより等への掲載ができなかった。	B	・エンカレッジルームの役割などを保護者や地域にも発信して欲しい。	・年度の早い時期に紙面で紹介する。関わっている生徒の個人情報に触れないようにする。
	○別室登校生徒への働きかけの推進	・不登校対応巡回教員、別室指導支援員の活用・連携	・別室登校生徒へのアンケートで満足度80%以上	B		B	・別室指導支援員の配置が80%完了した。別室へ登校する生徒への個別記録ファイルを設置して活用できている。	B	・別室登校生徒が増えているようなので、施設面や補助員が充実するようにして欲しい。	B	・不登校の生徒が別室登校につながったケースが複数あった。より利用しやすい別室の整備が必要である。	B	・不登校の生徒数が少ないと判断出来る。	・別室登校の生徒に、全教員が短時間でも関わる体制をつくる。
不登校・いじめ対策	○豊かな心の育成	・道徳授業の充実 ・縦割り活動の充実 ・「あいさつ」「返事」「感謝の言葉」の励行	・保護者アンケート「道徳授業の充実」「基本的生活習慣」肯定評価95%以上	A		A	・道徳授業を各学年ローテーションで行っており、全員が関わって授業を工夫している。 ・常に実施している。	A	・心の教育が大事な時代であり、道徳の授業を大切にしてもらいたい。	A	・「道徳授業の充実」に関する肯定的評価が96%であった。 ・「生活習慣」の97%と併せて達成することができた。	A	・ボランティア活動も積極的に行われている。保護者や来賓など、校外の人達に対する挨拶などの対応もいつも良い。	・引き続き道徳授業に力を入れ、授業力の向上を図る。
	○不登校対策の実施・充実	・いじめアンケートと担任面接の実施 ・特別支援委員会の充実	・不登校生徒出現率6%以下。新規不登校生徒出現率2%以下	A		A	・アンケートと担任面接により細やかに対応している。 ・2学期から登校した生徒もあり、不登校出現率は4.5%。	A	・未然防止と早期対応に努めてもらいたい。	A	・不登校出現率は6.2%であるが、新規の出現率は1.0%である。いじめは何度かあったが、適切に対応している。	A	・いじめの件数が減っており、発見した際の対応もしっかり行われている。	・不登校生徒が別室登校ができるように促す。別室での学習環境の整備を行う。

応の充実	○教育相談の強化	・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携強化	・どこにも繋がっていない生徒を0にする	A	A	・連携をうまくとり、情報を共有できている。現在のところどこにも繋がっていない生徒は0である。	A	・何かあったときのために、関係機関との連携も充実させて欲しい。	A	・年間を通じてうまく連携し、情報を共有している。どこにも繋がっていない生徒はいない。	A	・引き続き関係機関との連携を進めて欲しい。	・引き続き関係を密にし、生徒が必ずどこかで関わるようにしていく。
学校(園)の地域社会に開かれた実現	○学校だより、学校ホームページの充実等	・学校だよりの定期的発行 ・学校ホームページの定期的更新 ・tetoruiによる情報発信	・毎月の発行 ・週1回以上の更新	A	A	・予定通り行っている。	A	・いつもタイムリーな情報を学校から得ることができている。	A	・予定通り行っている。 ・保護者・地域から内容について高く評価していただいている。	A	・学校便りが毎月発行されており内容も良い。ホームページも適宜更新されている。	・生徒・保護者・地域に読んでもらえる紙面づくり、開いてもらえるHPづくりに努める。
	○学校関係者評価の充実	・生徒、保護者、地域、教職員へのアンケート調査の実施	・生徒へは年2回、保護者・地域へは年3回の授業公開時と2学期の4回実施	B	B	・予定通り行い、結果は学校だよりにて公表している。 ・アンケートの回答率低下に対策が必要である。	A	・アンケートの回答が全て載っているので様々な考えを知ることができる。	A	・記名式にし、機会を捉えて督促した結果、回答率が38%から78%に上昇した。ご意見には丁寧に回答している。	A	・アンケートによる意見をまとめて反映する事は大切だと感じるが、学校を良くする為の意見が少ないような気がする。	・学校評議員の人選の工夫、保護者アンケートの集め方の工夫を行う。
	○地域から愛される生徒の育成	・防災訓練、地域の祭り、ボランティア活動への生徒の参加	・生徒の半数以上をボランティアに関わらせる	A	A	・ボランティア活動への声掛けで活動する生徒が増加している。町会の一員として活動する生徒も多い。	A	・ボランティアの生徒が地域のために頑張っている様子が見られてとても良い。	A	・活動の様子を学校だより等で伝え、見える可している。コンスタントに参加者がいるが、同じ生徒であることが多い。	A	・学校・生徒が積極的にボランティア活動に協力して助かっている。引き続きお願いしたい。	・ボランティアに参加する生徒の様子を学校だより等で広く伝える。
教育の特色ある展開	○働き方改革の推進	・週1回のノー残業デーの実施 ・働き方マネジメントの推進	・月平均時間外労働時間昨年度より15%減または45時間以内達成80%	D	D	・15%減または45時間以内を達成しているのは30%にとどまっている。	B	・働き方改革は必要だが、仕事を中断させてまで定時で帰らせるのは却ってストレスになるのでは。	D	・人数の少ない中で仕事を割り振らざるを得ない小規模校はなかなか難しい。しかし3年前よりは確実に減っている。	B	・「仕事が減らないのに早く帰りなさい、ではパワハラになる」という校長の考えに賛同。	・早く帰れる時には帰るように呼び掛ける。個々の働き方マネジメント力を支援する。
	○自分の思いや考えを相手にしっかりと伝えることのできる生徒の育成	・グループ活動・縦割り活動・アウトプットの機会の増進	・2回のアンケートで自身の変容が感じられる生徒を40%以上	A	A	・予定通り進めている。	A	・共通の目標で教育活動を進めているのはとても良い。	B	・全ての教育活動でアウトプットの機会を作っているが、変容につながるのは2年から3年に上がる時のみであった。	A	・生徒たちとのふれあいの中で、生徒たちは自身の意見や思いはしっかり伝えようとしている。	・自信をもって考えを伝えるには継続した訓練が必要であるので、アウトプットの実践を続ける。
	○小中連携教育の推進	・小中連携プログラムの推進	・令和7年度の新入生81名以上(3クラス)の確保	B	B	・教科の連携プログラムを拡充している。 ・出前授業の教科をローテーションすることとした。	A	・小学校の先生が、松江六中は挨拶がすごいと言って体験入学の六年生を送り出していた。	A	・6月と2月に小中連携会議を行い充実した情報交換を行った。令和7年度の新入生も100名を確保した。	A	・西一之江小学校とは、立地的に近い環境にも恵まれ、良く連携出来ていると思われる。	・小中連携の充実と教科の連携プログラムのブラッシュアップ。互いの顔が見える連携の推進。